7	西春	清須市立西枇杷島中学校	山田（ヤマダ）　貴之（タカユキ）

分科会番号	１５	分科会名	進路指導・キャリア教育

主体的に進路選択する生徒の育成
～教科指導、学級・学年での活動、生き方を考える場の充実を通して～

１　主題設定の理由

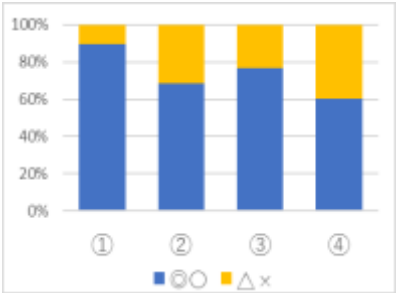
キャリア教育は、「学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる資質・能力を育てることを通して、児童生徒のキャリア発達を促すことを目標とする。そのために、各学校では、特別活動を要とし、総合的な学習の時間や学校行事、道徳教育や各教科における学習、個別指導としての教育相談等の機会を生かしつつ、学校の教育活動全体を通じて基礎的・汎用的な能力の育成を図っていく取組が必要である。」とされている。

本校の３年生を対象に、４月末に進路希望を調査したところ、３割程度の生徒が「希望学科は未定」と回答している（資料１）。記述欄には「学科がよくわからない」「将来の夢がわからない」と回答するなど、職業について考えることや、職業・進路の選択、決定を先送りする傾向の高まりを感じた。そこで、基礎的・汎用的能力をはかるために本校の２年生を対象としてアンケートを実施した。その結果（資料２）から、本校の生徒は自己理解・自己管理能力とキャリアプランニング能力への課題がみられた。自己理解・自己管理能力の課題に関しては、自分が「できること」や「したいこと」について、主体的に行動し、今後の成長のために進んで学ぼうとする力が身に付いていないといわれている。普段の学校生活では、生徒の自信や自己肯定感が低く、自分の可能性を含めた「やればできる」と考えて行動できる生徒が少ない様子がうかがえる。特に「話すこと」に対する苦手意識の強さが学年の課題と考えられる。また、キャリアプランニング能力の課題に関しては、「働くこと」の意義を理解して、多様な生き方に関するさまざまな情報を適切に取捨選択・活用しながら、主体的に判断してキャリアを形成していく力が不足しているといわれている。学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善などが必要である。これらのことから、自己理解・自己管理能力とキャリアプランニング能力の育成に視点をあてることで、主体的に進路選択する生徒を育成したいと考え、本主題を設定した。

【資料１】　学科の希望

【資料２】アンケート結果

【基礎的・汎用的能力の４項目】
①人間関係形成・社会形成能力
②自己理解・自己管理能力
③課題対応能力
④キャリアプランニング能力
◎〇肯定的回答　△×否定的回答



２　研究の仮設

教科指導・学級での活動に関して、キャリア教育の観点から見直し、生き方を考える場を充実させ、自己理解・自己管理能力とキャリアプランニング能力の向上をはかることで、主体的に進路選択する生徒が育成できるであろう。

３　研究の計画

仮説に迫る手だてとして、以下の３つを考えた。

手だて１　教科指導でのキャリア教育の充実

①　数学の授業での活動として、言語活動や振り返りの活動を充実させる。

②　道徳の授業で話しやすい・聞きやすい雰囲気を作るための実践をする。

手だて２　学級・学年の活動でのキャリア教育の充実

①　タイムマネジメントを意識させることで、普段から情報を適切に取捨選択・活用する判断力を高める。

②　「行きたい学校ってどんな学校？」の取り組みを通して、自分の進路への意識の優先順位を整理したり、振り返ったりする場を設定する。

③　「自分の思いを伝えよう」の取り組みを通して、話すことに対する意欲を高める。

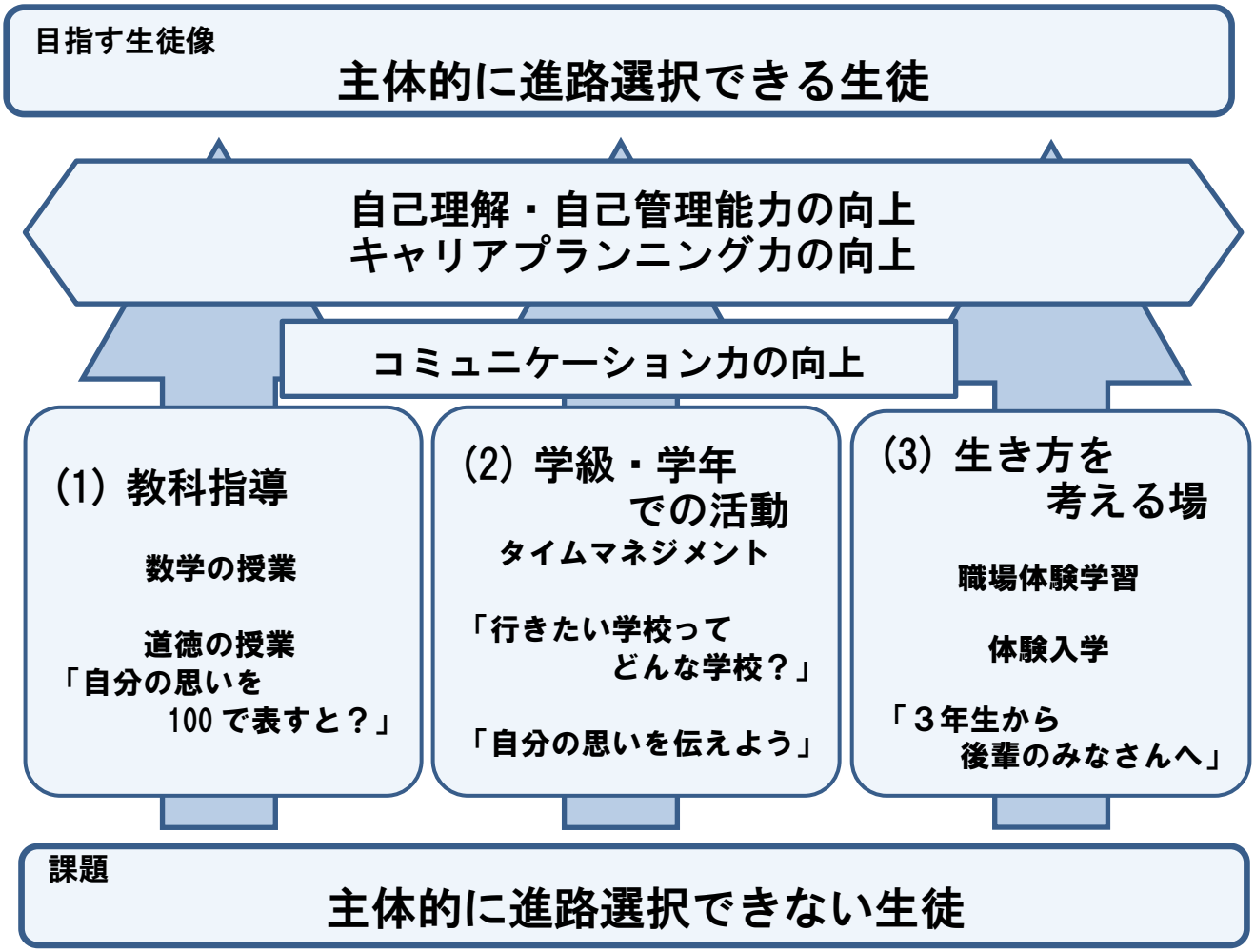
手だて３　生き方を考える場の充実

①　職場体験学習を実施し、職業観の形成をはかる。

②　体験入学に自らすすんで参加することで、進路意識を高める。

③　３年間を振り返る場を設定し、後輩へのメッセージを送る。

４　研究の構想＜研究構想図＞



５　研究の実際

(1) 手だて１　教科指導でのキャリア教育の充実

数学の授業では、課題に対して解決の見通しをもつために話し合いを行い、その後、グループで課題解決を考える授業展開に取り組んだ。解き方の見通しを立てているため、各自で解いていく班もあれば、お互いで助言をしあいながら解いている班もあった。数学が得意な生徒は、苦手な生徒のことを気にかけて、わからないところを説明している様子がみられた(写真１)。また、机間指導をする中で、班全員の手が止まっているときには、教員が解決へのヒントを出していくようにした。数学が苦手な生徒にとって質問しやすい雰囲気ができており、問題を解き終わったときに、教えてくれた生徒と一緒に喜ぶ姿がみられた。

また、解答をつくった班の中から１つの班を指名して、板書の際に大切な部分に色をつけさせた。その後、その板書を用いながら説明をさせる活動(写真２)を行い、途中で「なぜ両辺に１０をかけましたか」や「発表者は、どうしてこの式を３倍したと思いますか」のように質問を発表者や生徒に投げかけた。ただ計算をするだけではなく、その解き方について根拠をもって説明ができるように問い返しをした。内容を確認する際には、班の中でコミュニケーションが起こるような声かけを意識して机間指導を行った。問題演習の時間では、教科書の問題を解き終わった生徒から順に教員が〇つけをした。〇がついた生徒は、まだ解き終わっていない生徒のところへ行き、ミニティーチャーとしてヒントを出しながら問題を解決する手助けをさせた（写真３)。学級の生徒には、分からないことを「分からない」、「教えて」ということが大切だと継続的に伝えており、ヒントをもらい、自力で解くことの達成感を得ることができる場をつくっている。

テスト終了後には、解説をする前に振り返りシート（資料３）を配付した。解くことができなかった問題に対して「あと少しで解けたのに」という気持ちの中で取り組むことで、粘り強く課題に向かう態度を養うことができた。

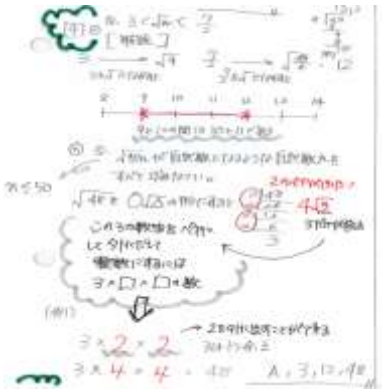
道徳の授業では、「自分の思いを 100 で表すと？」として「話しやすい」「聞きやすい」道徳の授業展開に努めた。生徒の話すことへの苦手意識を少しでも軽減するため、気持ちを数値化した（写真４)。「なんで 100 ではなくて 90 なの。」という具合に、班での会話が活発になっており、ただ意見を言うだけではなく、人の意見に耳を傾けたり、積極的に自分の思いを伝えたりする様子がみられた。

【写真１】グループの様子

【写真２】発表の様子

【写真３】問題演習の様子

【資料３】振り返りシート



【写真４】
自分の思いを 100 で表すと

⑵ 手だて２　学級・学年の活動でのキャリア教育の充実

本校では「自律」を合言葉とする取り組みの一つとして、タイムマネジメントの定着をはかっている。普段から、先を見据えて行動する力や自分から情報を把握・整理する習慣をつけるため、学年連絡掲示板と週予定表（写真５）を学年のフロアに設置した。掲示板には学年や教科の連絡、学年担当教員からのメッセージ等を載せる。週予定表には、その週の学年としての主な予定を掲示している。普段から情報を適切に取捨選択・活用する判断力を高めていき、生徒のキャリアプランニング能力を向上させることを目指している。

【写真５】学年掲示板

３年生での活動として、「行きたい学校ってどんな学校？」という取り組みを行った。３年生への進学・就職指導は生徒にとって、中学校卒業後の出口に目が行きがちである。しかし、「どこに進学・就職するかを決める」のではなく、「どの観点を注視して進学・就職を決めるか」に着目した。

【資料４】観点カード

校風や雰囲気	学力	学校行事
部活動	施設や設備	通学時間
中学の友人	校則	進学・就職実績
（空白）		

まず、生徒に志望校を決める際の観点のカード（資料４）を配付し、志望校を選ぶ際にどの観点を重視するか順位づけをして、４人班で話し合わせた。そして他のメンバーとディスカッションをして、班での優先順位の結論を出させた。自分の意見を述べたり、他の生徒の意見を聞いたりすることで、自分と異なる視点に気付くことができる。多様な考え方に触れて自分の考えを振り返り、自分自身の最終結論を決める。この実践は、志望校を決める際に「自分が行きたい学校はどんな学校で、どんな学校生活を送りたいのか」を考えることにつながる。また、学習支援ツールの画面を用いて面談をすることで、自分自身の思いを話しやすくなることが期待できる。

【写真６】活動の様子

毎朝のＳＴの時間には、その場でお題を伝えてペアで自分のことについて話をする活動を継続的に行った（写真７）。先述の通り、自分の思いを言葉で伝えることに対する苦手意識をもっている生徒が非常に多いものの、１対１にすることにより、安心して話すことができ、お互いにアドバイスをする姿が見受けられた。時間に余裕があるときには、４人や６人の班になって話をさせることで、少しずつ自信をつけていく様子がうかがえた（写真８）。また、試験での有無にかかわらず、希望者には学級の生徒の前で面接練習を実施した（写真９）。座る姿勢や立ち方、入室の方法などを確認し、よかった点や気になる点を指摘しあった。普段とは違う緊張感を味わうことで、とても充実した時間になっていた。

【写真７】活動の様子

【写真８】活動の様子

【写真９】面接練習

(3) 手だて３　生き方を考える場の充実

将来を見据えて望ましい勤労観、職業観を形成するために、職場体験学習を実施した（写真 10）。実際に働く人から話を聞き、仕事を体験することで、将来の進路について考えるきっかけにしている。体験当日は、黙々と作業に取り組む姿や、笑顔で接客をする姿がみられた。体験後の表情からも、充実した３日間の様子がうかがえた。体験実施後は、事業所ごとにまとめ学習を行い、職業の紹介や仕事内容、社会人から学んだことなど、自分の肌で感じたことをまとめ、発表の場を設けた（写真 11・12）。それぞれの班で丁寧に要点をまとめて発表をして、体験活動を振り返る場となった。また、ブースに分かれて発表を行うことで、自分が体験することができなかった事業所で興味がある場所の発表を聞き、将来の自分について考える場にもなった。

【写真 10】活動の様子

【写真 11】職場体験発表会

【写真 12】職場体験発表会

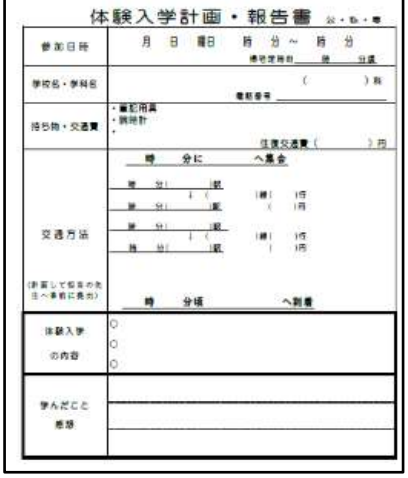
修学旅行ではキャリア学習の一環として、施設で働く人に関する学習を行った。事前学習として、校内にて「ディズニーアカデミー」をオンライン形式で受講した（写真 13）。ディズニーリゾートで実践しているコミュニケーションのポイントについて、実演を交えた紹介動画を視聴し、「働くこと」についての興味・関心を高めた。修学旅行中には、事前学習で学んだ内容を確認・体験することができ、キャストのおもてなしの心を学ぶ時間となった。修学旅行後には、新聞形式でのまとめ活動を行った。キャストの掃除をしている姿や、接客の様子、話し方や表情・視線に目を向けている生徒が多くみられた。

【写真 13】ディズニーアカデミー

３年生では、積極的な上級学校の体験入学への参加を促し、「自分が行きたい学校」を探させた。各教室にパンフレットを設置するだけではなく、進路指導室前に進路コーナーを作って、各学校のポスターや、体験入学の案内を掲示した（写真 14）。生徒は、案内や各学校のＨＰを見て参加申込を行った。体験入学への参加前には、日時や持ち物、学校への行き方などを調べて計画書を作成した。体験入学への参加後は、当日の内容や学んだことや感想をまとめて振り返りができるようにした。また、体験入学計画・報告書（資料５）をまとめたファイルを進路指導室に設置することで、いつでも当日の様子を知ることができるようにした。

【写真 14】体験入学案内

【資料５】計画・報告書

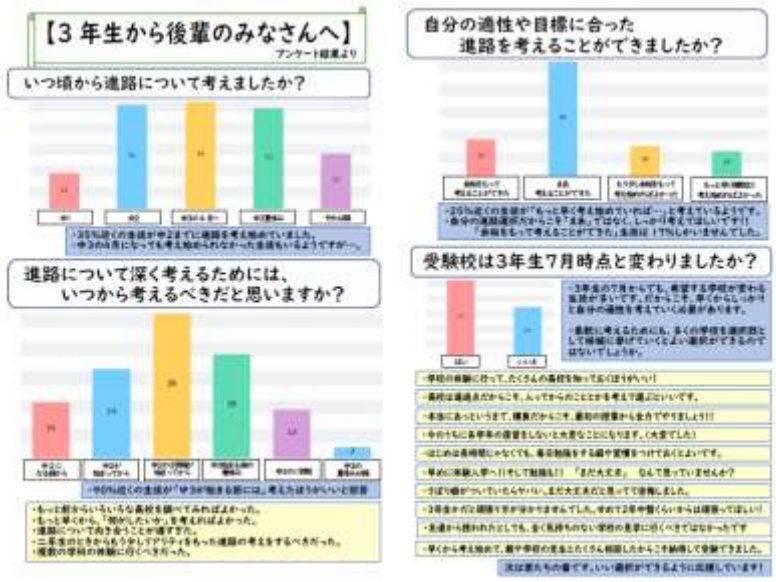


体験入学計画・報告書

参加日時	月　日　曜日　時　分～　時　分
学校名・学科名	（　　）科
持ち物・交通費	・筆記用具 ・腕時計 往復交通費（　　）円
交通方法	時　分に　へ集合
体験入学の内容	○ ○ ○
学んだこと感想	

３年生の２月下旬にはほとんどの生徒の入試が終了している。そこで、進路決定までの過程を振り返り、３年生から下級生にむけて、進路選択に関するアンケートを回答させた。これを集約し、まとめたものを下級生の教室に掲示し、自由にみられる状態にした（資料６）。３年生からのメッセージを見ることで、下級生は、来年度の自分のことを、自分事としてとらえられるようになっていった。また、３年生自身にとっては、自分のことを振り返る場となり、卒業に向けた前向きな感想が多くみられた。

【資料６】３年生から後輩のみなさんへ



６　成果と課題

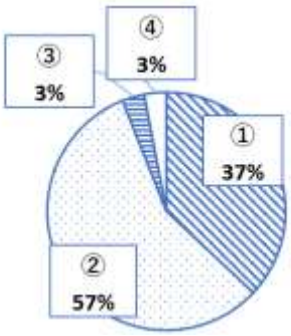
手だて１、２、３の実践後、初年度のアンケートを３年生に再度実施したところ、自己理解・自己管理能力とキャリアプランニング能力の向上がみられた（資料７）。手だて１では、教科の授業において、他者との積極的なコミュニケーションを図り、「聞くこと」「話すこと」への安心感が生まれ、それを何度も繰り返すことで、自信や自己肯定感の高まりにつなげることができた。手だて２では、自分のことを話す場を多く設定することで、自分のことを積極的に振り返り、自己理解の高まりにつながったとも考えられる。１年間の実践を経て、生徒に話すことへの自信についてアンケートをとったところ、９割をこえる生徒が「自信がついた・まあついた」と回答をしたことからも、苦手意識がかなり薄れてきていることが分かる（資料８）。試行錯誤の中でも、自分の言葉で伝える活動を何度も繰り返して、その子なりに挑戦することで、成功体験を積むことができた。それが達成感を得ることにつながり、今回の結果に現れたと考えられる。手だて３では、同学年の仲間や、下級生へ自分の経験を共有することで、将来設計を見つめ直し、振り返る場となった。今後も、学校全体を通して、継続したキャリア教育の充実をはかりたい。そして、生徒の実態に合わせて実践を改良し、主体的に進路選択をすることができる生徒の育成をめざしていきたい。

【資料７】アンケート結果

②自己理解・自己管理能力
④キャリアプランニング能力
◎〇肯定的回答　△×否定的回答

【資料８】話すことに自信がついたか

①ついた
②まあついた
③あまりついていない
④ついていない



７　参考文献

＊『中学校キャリア教育の手引き（文部科学省）』
＊『教員研修の手引き（愛知県教育委員会）』
＊『「７つの力」を育てるキャリア教育』諸富祥彦著／図書文化社
＊『これぞプロの技！中学校進路指導・キャリア教育Ｑ＆Ａ（日本進路指導協会）』